

「こおりやまの米」通信



郡山市

イメージキャラクター

「かくとくん」

編集：郡山市

JA 郡山市 (Tel. 921-0724)

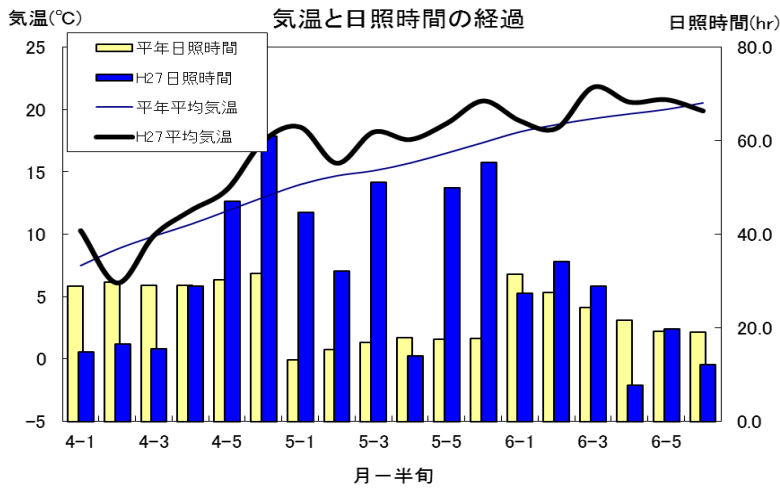
NOSAI 郡山田村 (Tel. 933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (Tel. 935-1310)

発行：郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市園芸畜産振興課 TEL924-3761)

Vol.7 ～穂肥・病害虫防除～ 次号は9月上旬(刈取適期)

最新号はJA各支店窓口にならえつけてあります



7月15日 生育調査結果

1 生育概況

7月15日の生育調査の結果では、草丈はやや短く、茎数は平坦部では平年並みからやや多く、高冷地のあきたこまちでは多く、葉色は平年並みです。幼穂の状況から、平坦部のひとめぼれは8月4日(平年値8月5日)、高冷地のあきたこまちは8月3日(平年値8月6日)に出穂すると見込まれます。また、平坦部の天のつぶの出穂期は平年値で8月8日、コシヒカリの出穂期は平年値で8月11日です。

2 天気予報

＜東北地方 1か月予報＞ (平成27年7月16日 仙台管区气象台発表)

東北太平洋側では、期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目(7/18~7/24)は、高い確率60%です。2週目(7/25~7/31)は、高い確率50%です。

3 作業のめやす (管内主要品種の予想値(平年値)です。ほ場ごとに生育を確認し作業日程を決めてください!)



4 水管理

(参考) 水管理期間中の水田水温と水田地温

- 中干し後は、間断かん水により根を健全に保ちましょう。(低温の恐れがある場合は深水にしましょう)
- 出穂期以降に高温が続く場合は、できるだけ掛け流しをして水田の水温・地温を下げ、高温登熟による障害(乳白・腹白)を防ぎましょう。

区名	最高(°C)		最低(°C)		平均(°C)	
	水温	地温	水温	地温	水温	地温
掛け流し区	25.4	24.9	21.4	21.6	23.1	23.1
常時湛水区	28.4	26.2	23.4	24.1	25.4	25.1
間断かん水区	30.4	29.0	22.3	23.3	25.5	25.8

(2000年 福島農試)

平成27年産米の全量全袋検査への御理解と御協力をお願い

昨年に引き続き、平成27年産米についても販売米、縁故米、くず米等、生産されたすべての玄米を対象として「全量全袋検査」を実施します。検査を受けて安全を確認した上で、米を販売、譲渡、消費されるようお願いいたします。

なお、昨年作付していない(検査していない)方で、営農計画書未提出のまま、今年作付した方は下記までご連絡をお願いいたします。

問い合わせ先：郡山市農業政策課 TEL 024-924-2201 県中農林事務所農業振興普及部 TEL 024-935-1310

5 穂肥 ～適正な穂肥で倒伏を防ぎましょう！～

(1) 幼穂長等を確認し、適期に追肥しましょう。

※基肥に一発肥料を使用した場合は、原則として穂肥は行わないでください。

幼穂長による出穂前日数の判定

幼穂長	出穂前日数	備考
1mm	25日	幼穂形成始期
2mm	20日	
8-15mm	18日	
40-60mm	14日	
80mm	12日	減数分裂期

穂肥の時期と量の目安

品種名	福島県施肥基準	
	穂肥適期	穂肥量(窒素成分)
コシヒカリ	15日前	2kg/10a
ひとめぼれ	25日前	
天のつぶ		
あきたこまち		

(2) 倒伏の恐れがある場合は散布時期を遅らせ、量を減らして施用しましょう！

出穂25日前の生育の目安

品種	草丈	葉色	茎数 (㎡あたり)
コシヒカリ	65~70cm	3.0~3.5	550~600
ひとめぼれ	60~65cm	3.5~4.0	
あきたこまち	55~60cm		

左の目安より多い場合、倒伏の恐れがあります

品種名	倒伏の恐れがある場合	
	穂肥時期の目安	穂肥量の目安
コシヒカリ	7日前まで	1kg/10a
ひとめぼれ	15~10日前	1.5kg/10a
あきたこまち		

(3) 出穂5日前以降の追肥(実肥)は、玄米のタンパク質含量が高まり、食味が低下するので行わないでください。

6 いもち病防除

葉いもちの病斑を発見したらすぐに液剤や粉剤で防除しましょう。また、田植え時に殺虫殺菌剤を箱施用した場合でも、コラトップ粒剤5(出穂30日前~5日前)等で穂いもち防除を行ってください。

いもち病の感染好適条件(以下の条件が重なる場合は注意して下さい)

- ・最低気温が16℃以上。
- ・稲体表面に水滴が8時間以上持続して付着している。

7 斑点米カメムシ類 ~斑点米カメムシ類多発注意報が発令されています！乳熟期の薬剤散布は必ず行いましょう~

(1) 畦畔の草刈りは、出穂10日前までに行いましょう。

(2) 薬剤防除：粉剤、液剤等による防除は、乳熟期(出穂期^{*1}の7~10日後)を基本とします。

粒剤を使用する場合は、穂揃期~乳熟期に湛水状態で散布します。※1出穂期=ほ場の40~50%が出穂した時期

(3) 追加防除：その後も発生が見られる場合は、7日あけて追加防除を行いましょう。

割れ粃はカメムシによる吸汁を助長します。割れ粃の発生しやすい品種(あきたこまち、天のつぶ)では出穂20日後頃の追加散布が重要ですので、乳熟期と出穂20日後の2回散布を基本にしましょう。

薬剤名	使用量	使用回数	使用時期
MR. ジョーカー粉剤 DL*	3~4kg/10a	2回以内	収穫7日前まで
スタークル液剤 10*	1000倍、60~150L/10a	合わせて3回以内	
スタークル粒剤	3kg/10a		
キラップフロアブル	1000~2000倍、60~200L/10a	合わせて2回以内	収穫14日前まで
キラップ粒剤	3kg/10a		

* 蚕に対する毒性の強い農薬であり、使用規制地域を確認のうえ使用しましょう。

※使用回数は、無人ヘリ防除等による使用農薬もカウントされますので、使用回数を超えないようにご注意ください。

※殺虫剤はミツバチなどの有用昆虫に対し長期間影響を与える場合があります。養蜂業者(所有者不明の場合は県中農林事務所農業振興普及部 TEL935-1310)との連絡を密にし、ミツバチの活動が最も盛んな時間帯(午前8時~12時)の散布を避ける等、事故のないようにしましょう。

※共済組合にて、水稻共済加入者の方に動力噴霧機の貸出しを行っています(電話予約が必要となります)。

この資料は、平成27年7月8日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

！！平成27年度福島県農薬危害防止運動展開中！！(6/10~9/10)！！

農薬(特に粉剤・液剤)を使用する際は、近隣作物に飛散しないように注意して下さい。